

林野庁本庁交渉（全国林野関連労働組合）  
議 事 要 旨

1 日 時 令和5年3月24日（金） 12:00～13:00

2 場 所 林野庁内 会議室

3 出席者

林野庁	橘 政行	国有林野部長
同	石黒 裕規	管理課長
同	嶋田 理	業務課長
同	原嶋 広行	管理課福利厚生室長
同	大竹 武司	林政課管理官
同	高橋 東	管理課管理官
同	宇山 雄一	業務課技術開発調査官
同	松木 聡	管理課管理官
同	竹内 学	経営企画課課長補佐（総括）
同	岸 功規	業務課課長補佐（総括）
同	伊藤 公夫	林政課課長補佐（人事管理班担当）
同	藤原 雅章	管理課課長補佐（総務班担当）
同	宮中 信哉	管理課課長補佐（労務管理班担当）
同	松井 信行	管理課課長補佐（安全衛生班担当）
同	石田 秀夫	管理課課長補佐（施設営繕班担当）
全国林野関連労働組合中央本部	中村 恭士	委員長
同	山田 明裕	副委員長
同	鳴川 康也	書記長
同	伊藤 誠	執行委員
同	三品 幸弘	執行委員
同	天田 寿	執行委員
同	遠藤 歩	執行委員

4 交渉事項

- (1) 労働諸条件の改善について
- (2) 雇用と年金の接続について
- (3) 労働安全の確保・徹底等について
- (4) 宿舍の確保等について

(当局)

ただいまより、先般申し入れのあった交渉を開始する。

あらかじめ窓口において予備交渉を行い、交渉時間、交渉項目等を整理しているので、それに基づき進行をお願いします。

(職員団体)

はじめに、労働諸条件の改善の関係である。

職場状況を見ると、森林管理局・署の要員が増えていかないうちで、現場段階においては非常勤職員に頼らざるを得ない状況が大きくなっていると考えているが、来年度の非常勤職員予算について見解を伺いたい。

(当局)

非常勤職員予算については、再任用を行った上で計画的かつ効率的な事業実行を進めていく観点からなお必要なものについて臨時雇用で対応するという考え方の下、令和5年度については、再任用を拡大する中であって、非常勤予算全体で令和4年度と同額程度の予算を確保したところである。

非常勤職員の雇用に当たっては、事務系作業と現場系作業の組合せや、予算の効果的な活用といった工夫もしながら、業務が円滑に実施できるよう努めてまいる考えである。

(職員団体)

今年度も非常勤職員予算が不足している状況の中にあるため、しっかり非常勤職員予算を増額していくという林野庁の考え方を改めて示していただきたい。

(当局)

令和5年度においては、労務単価を含む各種経費が増高する中で、職員の再任用の拡大、効率的な事業執行を図りつつ、前年度と同額程度の予算を確保できたことは、最低限必要な非常勤予算を確保できたものと考えており、引き続き、効果的な予算執行に努めてまいりたい。

(職員団体)

次に、森林官の労働条件の改善についてである。

現場管理機能を強化していく中で、森林事務所への1～2名の職員配置は重要な部分であり、一般職員や期間業務職員、非常勤職員を各森林事務所に配置していくことが森林官の労働条件の改善等に関わってくると思っている。

昨年度以降、どのように改善しようとしたのか。

(当局)

局に対しては、再任用職員を活用するとともに、森林事務所においては、現場業務を基本としつつ簡易な事務作業を組み合わせるなど、工夫をしながら非常勤職員等の雇用を検討することを

指導しているところである。

(職員団体)

全森林事務所への1～2名配置等を含めて状況が改善していかないため、非常勤職員予算を増やしていくことが最大の改善ポイントだと思う。

全森林事務所への配置に向けた考え方をしっかりと持って進めていくことが重要だと思うが、その考え方を聞かせていただきたい。

(当局)

ただちに全ての森林事務所に複数の職員を配置することは難しい状況にあるが、引き続き、再任用職員等の活用や非常勤職員の予算確保に努めるとともに、配置ができない森林事務所の業務については、隣接する森林事務所や署等との連携による応援等がより円滑になるよう努めてまいりたい。

(職員団体)

次に、超過勤務について、今年度の実績はまだ確定していないと思われるが、現時点で分かる実績があれば教えていただきたい。

(当局)

令和4年の超過勤務の状況について、令和3年度と比較すると若干の増加は見られるが、これは令和4年7月の豪雨災害に伴う対応によるものである。

(職員団体)

依然として月100時間を超えている職員がおり、他律的業務が影響していると思うが、職場状況をしっかり見ていただきながら、この状況を1人でも減らしていくよう検討していただきたいと考えているが、現段階で検討しているようなことがあれば教えていただきたい。

(当局)

超過勤務の縮減については、超過勤務命令の上限規制を踏まえ、令和3年3月に、林野庁林政課長通知を改正し、超過勤務縮減に取り組んでいるところである。

長時間の超過勤務を行っている職員がいる場合には、その機関の庶務担当課長が関係部署の管理職員から事情を聴取し、その改善に向けて、課係等を超えた応援体制について検討するとされており、これらを踏まえて、引き続き、各局等を指導していくとともに、本庁各課も含めて周知徹底を図ってまいりたい。

(職員団体)

超過勤務の縮減については、業務の抜本的な見直しも含めて検討していくべきと考えている。ICTなど様々なシステムが入り効率化が進められているが、直ちには超勤時間の削減には繋が

ってこない。全体的な業務の見直しを検討していくべきと考えているので、改めて求めさせていただく。

次に、非常勤職員の採用初年度の適用単価を 1,150 円以上となるように適用号俸を引き上げるよう求めさせていただく。非常勤職員の労働条件等については、常勤職員と差があるため、関係省庁を含めて改善に向けて取組を進めていただきたい。

(職員団体)

次に、雇用と年金の接続についてである。

定年が引き上げられる中、昨年、59 歳になる職員に対して情報提供や意思確認が行われたが、最終的にいつまで変更が可能なのかというところを職員が気にしている。都度、このような情報を職員へ周知していくべきと思うため、改めて検討をお願いしたい。

また、再任用職員制度は非常に重要であるため、本人希望に基づく配置を含め、令和 6 年度の制度設計に向けて検討していただきたい。

(職員団体)

次に、労働安全の確保・徹底等についてである。

この 1 年の公務災害の発生状況を見ると、転落・転倒による災害が増えてきている状況にある。

本庁、局、署を含めて安全管理体制をしっかりとっていないと災害は減っていかないと考えているが、安全に関する対策や考えを聞かせていただきたい。

(当局)

職員の安全の確保は、人命尊重の上から極めて重要であり、また、事業の円滑な運営にとって不可欠な条件であると考えており、災害の未然の防止、特に重大災害の根絶を期すべく、林野庁・局・署等が一体となって各種災害防止対策の推進に取り組む考えである。

また、安全管理体制については、森林管理署長等がリーダーシップを発揮するとともに、安全管理者等がその役割と責任を自覚し、現地での的確な対策と指示ができるよう指導・教育を行い、安全管理体制の充実・強化に努める考えである。

(職員団体)

災害ゼロに向けて、引き続き、局署への指導を含めて林野庁として責任を持った対応を求める。

また、安全に関わる車両について、スペアタイヤを含めて局署の要望に合わせて措置していたが、令和 5 年度についても、局署の要望に基づき措置を進めていただきたい。

(当局)

引き続き、局署の要望に沿うよう安全装備の充実を図ってまいりたい。

(職員団体)

スペアタイヤがパンクする頻度も高いため、スペアタイヤを措置したから OK ということではな

く、パンクの回数に限らず、局署の要望に対してはしっかりと対応していただきたい。

(職員団体)

次に、宿舎の確保等についてである。

宿舎修繕が進んでいない、合同宿舎で厳しい対応を迫られている等の意見があるほか、近くに合同宿舎がなく近くの民間アパートを借りざるを得ない状況にあり、経済的に負担になっている状況もある。

責任を持ってしっかりと局署の実情を把握し、必要な修繕等の対応を行っていただきたい。

(当局)

宿舎修繕については、定期的に保全点検を行い、計画的な修繕及び改修に取り組むことにより施設の長寿命化を図ることとし、執行に当たっては、入居者の要望も踏まえつつ、緊急度・優先度を勘案して行う考えである。

宿舎修繕の適正な実施に向け、宿舎の原状回復等の取扱いとして、国が行う修繕のほか入居者が行う修繕の取扱いを示しているところであり、宿舎の実態に基づく公平な判断の下、計画的な実施に努めていく考えである。

宿舎修繕に関する取扱いは、合同宿舎や他府省所管宿舎についても同様のものと理解しているところであるが、他府省所管宿舎における設備の不良などの実態に対しては、入居前に宿舎の状況確認に努め、必要に応じて改善を依頼するなど、関係機関との調整に努める考えである。

(職員団体)

昨年の交渉において、風通しの良い職場づくりという話があった。

職場環境を良くすること、若い職員の人材育成を含めて面倒を見るということ、これは、やはりその職場の長が自覚しているのかどうかであり、私は足りないと思っている。

本日議論してもらった課題も、職員の労働条件を良くするという点、それは職場環境の改善と一体的な意味でもあるし、我々の主張は、職場で働く仲間の声を代弁して言っているものであるため、是非ともこの言葉を受け止めてご努力を願いたいと思う。

(当局)

本日は、職員団体の皆様から、現場実態を踏まえた貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

予算の制約はあるが、本日のご意見を念頭に置きながら課題解決に向け検討あるいは工夫を重ねていきたいと考えている。

最後に話があったとおり、特に、今後の林野庁を担う若手職員のやりがいや働き甲斐に答えていきたいという想いは皆さんと共通だと思っている。

引き続き、皆さんと意思疎通を図りながらより良い職場づくりに努めていきたいと考えているので、引き続きのご協力をお願いしたい。

(以上)